

大阪の福祉を知るみんなの情報誌

ウェルおおさか

vol. 153 2024年 12月号
隔月発行(偶数月1日)

特集

若年性認知症の人への支援を考える ～誰もが暮らしやすい社会へ～

- 図書・資料閲覧室からのお知らせ
- 講座案内



若年性認知症の人への支援を考える

～誰もが暮らしやすい社会へ～



2024年1月に「共生社会の実現を推進するための認知症基本法」が施行され、若年性認知症を含む認知症の人の社会参加の機会の確保等に関する施策を進めることとされています。若年性認知症とは、65歳未満で発症する認知症のことです。就労、子育て、家事負担、社会生活において活動の場がなくなる等、高齢者とは異なる課題があり、経済的な面も含めてそのニーズは非常に広範です。そのため、若年性認知症の人の支援は、さまざまな分野にわたり総合的に講じていく必要があります。今回の特集では、大阪市の取り組みや、民間施設の取り組み、若年性認知症の当事者の声を紹介し、認知症の人も暮らしやすい社会について考えます。

早期発見と早期支援 その周知徹底が重要

わが国では高齢化の進行とともに、認知症の人が増加しており、「認知症」への対応に注目が集まっています。そこで、今回特に注目するのは「若年性認知症」です。厚生労働省の2020年のデータでは、若年性認知症の人の数は全国に約3.57万人いると推計されています。「若年性認知症の発症時点では約6割が就業していたが、発症が判明後にそのうちの約7割が退職した」というデータもあります。これまでと変わらず元気で動けるのに、記憶力（認知機能）が低下したことで多くの人が仕事を失ってしまうのはなぜでしょうか。大阪市福祉局で認知症施策を担当する永石さんは、「事業主側に若年性認知症の人の就労についての情報が十分でないことや、当事者本人も現状では今の仕事を続けるのが難しいと判断して退職することもあるようです」と話します。

大阪市では、各区の認知症強化型地域包括支援センターの認知症地域支援推進員等が若年性認知症の人と家族への支援を行っています。また、大阪市若年性認知症支援コーディネーターは、若年性認知症の人やその家族、関係機関及び企業等に、必要な支援制度やサービス等を紹介するなど、認知症地域支援推進員等と連携して各種相談に応じています。

大阪市のホームページには、若年性認知症の人等に活用頻度の高いサービスを分かりやすく説明することができる、支援者向けの『大阪市若年性認知症支援ハンドブック』が公開されています。

若年性認知症は、初期症状の原因が認知症であるとは分からず、医療機関の受診が遅れることが多いことから、若年性認知症の早期診断や診断直後の早期対応が重要です。永石さんは、「地域包括支援センターは高齢者の支援が対象というイメージを持っている人が多いため、相談窓口の周知徹底を更に進めています」「ご本人やご家族など、少しでも気になることは、ぜひ最寄



▲大阪市福祉局 高齢者施策部
地域包括ケア推進課 認知症施策担当課長
永石 真知子さん

りの認知症強化型地域包括支援センターへご相談ください」と話しました。

認知症の人にやさしい まちづくり

身近な地域における 支え合いの仕組みづくり

- 各区の認知症強化型地域包括支援センターに認知症地域支援コーディネーターを配置して、認知症の人やその家族とともに活動するボランティアチーム「ちーむオレンジサポーター」の立ち上げに取り組んでいます。
- 認知症の人にやさしい取り組みを行う企業・団体を「オレンジパートナー」として登録、周知し、地域の支援活動の促進につなげています。

『大阪市認知症アプリ』

認知症の知識や 相談窓口情報などが満載

- 大阪市では、「認知症の“気になる”が分かる『大阪市認知症アプリ』」を公開するなど、若年性認知症を早期発見し、支援につなぐための啓発活動に力を入れています。



個性や得意を最大限に活かし、 各々が社会活動の役割を担う

かみやま倶楽部(北区:アクティブなデイサービス)

認知症になる前と 変わらず自分らしく

若年性認知症、初期認知症の人を主な対象にしたデイサービス「かみやま倶楽部」について、北区社会福祉協議会事務局長の松本聡美さんにお話をうかがいました。

“認知症になっても「自分らしく人とつながり、好きなことや新しいことにチャレンジしたい」「人の役に立ちたい」という気持ちは以前と変わらない”というメンバー(利用者)の思いを、かみやま倶楽部のパートナー(スタッフ)は、大切にしています。

かみやま倶楽部では、メンバーで1日の活動内容を決めています。「動物園に行きたいなあ」「太陽の塔を真下から見てみたい」「バーベキューの季節やなあ」といったメンバーの言葉からミーティングで話し合い、天候に合わせて公共交通機関を使って出かけます。一人では自信がなくてもみんなと一緒に安心。外出先では「おにぎり、外で食べるとおいしいなあ」「この珍しい花の名前なんやろ?」部屋の中に閉じこもっているのは気づかないことを発見し会話ははずみ、笑いも絶えません。そう、普通の生活です。

周囲の方から「認知症の人とは思えない」と言われることがあります。「認知症の人とはどんな人?」と返したくなります。

パートナーは、メンバーが困った時には一緒に考え、自分自身で決め、行動できる機会を増やせるようお手伝いする脇役にすぎません。日常生活活動でも、花の水やり、食器や洗濯物の片づけ、掃除などはメンバーで役割分担して行います。何をすれば良いのか迷っている方には「〇〇さん、これをやってもらえませんか」と声かけするだけで力を発揮できます。メンバー同士でも声をか

け合っています。家では家事をしない方も、ここでは役割があり、生き生きと活動されています。これは室内だけにとどまりません。

社会の中で生きる、社会とつながる機会を大切にしています。発展途上国の子供たちにワクチンを届けるためにエコキャップを回収し、地域の菜の花プロジェクトへ協力するためにベランダで菜の花を育てています。また、経済産業省が推進するオレンジイノベーション・プロジェクトという、認知症当事者のニーズにフィットした商品開発に協力し企業の開発プロセスにも参画しています。

力を合わせ取り組む 「認知症カフェ」

かみやま倶楽部のデイルームで行う「かみやまカフェ(毎月第3火曜)」や、地域に出張して行う「済美カフェ(オレンジカフェ:毎月第4火曜日)」は10年以上続いていて、メンバーの淹れるコーヒーと歌声を楽しみに参加されるお客様も増えているとのこと。「カフェの運営はメンバーの自己肯定感を高めるだけでなく、地域の方々に認知症への理解を広めることにもつながっていると思います」と松本さん。

カフェのスタッフを務めるのは60歳から80歳代のかみやま倶楽部のメンバー約10名とパートナー、地域の役員や民生委員の皆さん。包括やオレンジチームのスタッフも参加し、地域の方からの相談にも個別に対応しています。

「メンバーの得意なことや、やりたい



▲会場とひとつになって歌う♪

かみやま倶楽部の活動内容

- ボランティア活動:エコキャップの回収、菜の花プロジェクト
- 認知症カフェ:かみやまカフェ(第3火曜)の運営、地域でのカフェ(第4火曜)
- 自己実現としての活動(やりたい活動を仲間と計画・協力して実践する活動):野球、卓球、外食、料理、季節を楽しむ外出(散歩、バーベキュー、花見など)
- レクリエーション(講師あり):コーラス、体操、アートワークなど(各毎月1回)
- 日常生活での活動:清掃、片付け、洗車などもスタッフとメンバーが一緒に行う

ことを担当してもらい、取り組んでもらっています」と住田さん(看護師・認知症ケア上級専門士)。

毎回、評判のドリップコーヒーを淹れるのは、有名カフェ店で長年マスターをされていた70歳代の男性です。「美味しいコーヒーの入れ方は?」とお聞きすると「内緒やで」と言いながらとっておきの方法を教えてくださいました。

また、リクエスト曲を来場者と歌うコーナーの進行役は、ハリのある声が特徴の70歳代の男性。学生時代、応援団に所属し、バンドのボーカルの経験もあるそうで「歌うことが好きなので毎回楽しみです」とのこと。受付やセッティング、ウェイターもメンバーが担当し、やる気に満ちた表情で取り組む姿が印象的でした。来場者の80歳代の女性は「毎回知り合いの二人と一緒に来て、歌って笑って発散しています」と笑顔。

会場は満席の大盛況。終盤には全員で立ち上がり、テーブルの間を歩きながら歌う、活気あふれる時間になりました。各々の役割を果たし、充実した1日を過ごされている姿を見せていただきとても豊かな気持ちになりました。



▲活動をとおりて仲間とつながる

身体は元気。記憶が良くないだけ 工夫次第で、変わらず生活できる

丹野 智文さん



1974年宮城県生まれ。ネットヨタ仙台で自動車のトップセールスマンとして活躍していた2013年、39歳のときに若年性アルツハイマー型認知症と診断される。その後、同社の事務職に異動して勤務を続けながら、若年性認知症の当事者のための相談窓口「おれんじドア」実行委員会の代表を務める。また、各地で自らの経験を語る講演を行うなど、当事者を元気づける活動に注力している。

『笑顔で生きる—認知症とともに』など著作多数。

若年性認知症の当事者として全国各地で講演を行うなど、会社員を続けながら精力的に活動されている丹野さんに、お話をうかがいました。

最初に若年性認知症の診断を受けた時のことについて、「物忘れがひどいな」という自覚症状があったので脳神経外科に行きました。自分では「仕事のストレスで疲れているのかな」くらいにしか思っていませんでした」と当初の思いを語る丹野さん。「私が認知症にしては若いということで、精密検査から時間がかかり数カ月を経て“若年性アルツハイマー型認知症”という診断が出たんです」。

診断直後の心境について、丹野さんは「自分自身が認知症について、あまりよく知りませんでした。インターネットなどで見つけた“若年性認知症は進行が早く、2年で寝たきりになり、10年で亡くなる”などという極端な情報ばかりを信じてしまい、“人生が終わった”と思っていました」と振り返ります。

絶望から立ち直る力をくれた周囲の支え

丹野さんは退院後、生活を続けるうちに、考え方が少しずつ変化してきたといいます。まず、「仕事も休んでいて、将来が不安で大きく落ち込んでいた時期に、

認知症の当事者の“家族の会”と出会い、自分の中だけに留めていたことを相談する人を見つけることができ、それが支えになりました」と丹野さん。さらに、「最も大きかったのは勤め先の支えです。退院後、アルツハイマーと診断されたことを報告すると、すぐに社長が“長く働ける環境をつくるので戻っておいで”と、本社の総務人事グループでの事務職への異動をすすめてくれました。嬉しくて涙したことを覚えています」。こうして少しずつ挫折から立ち直るきっかけをつかんでこれたとのことでした。

生き抜く力を、工夫しながら身につける

丹野さんは「今思うと若年性認知症と診断されても、何も絶望することはなかった」と振り返ります。「身体が元気

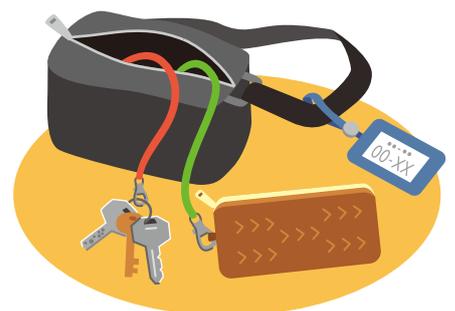
で、どこにでも行けるし動ける。記憶力が良くないだけ。その気になれば記憶力をフォローする工夫はいくらでもできるんです」「特に、認知症にとっての最強の味方はスマートフォン。使い方を工夫すれば、もう脳の一部になるんじゃないですか」と丹野さんは笑います。

若年性認知症でも困らないための工夫とは

丹野さんが「認知症の当事者として生活する上で身につけた工夫」について伺いました。

●タイマー

予定が入ったらすぐに、スマートフォンでスケジュール帳に入力したタイマーをセット。朝起きたら「今日の予定」をチェックし、14時から取材なら15分前の13時45分に「14時から取材だよ」という文字を入れてタイマーをセットしておきます。実際にはこの予定は覚えていないことが多いんですが、タイマーがあるから対応ができるんです。



●ストラップでバッグにつなぐ

外出時に絶対忘れられない財布や、電車のICカード、キーホルダーなどは、いつも持ち歩くバッグにストラップでつないで一体化させておきます。こうすれば、何を持たなければならないかを覚えていなくても忘れ物をしなくて済みます。

●メモ帳

仕事の順序や、機器の操作の順序、対応すべき人との用件の内容や人物の特徴などを細かくメモする習慣が、仕事をしながら身につきました。必要に駆られて身につけたことですが、メモを詳細に取ってミスを少なくすることで認知症でも仕事ができています。認知症が進行してもメモを詳細に取っておけば大丈夫という気持ちで続けられています。

●若年性認知症表示カード

「私は若年性認知症です」と記したカードを身につけて出かけています。地下鉄の乗り換えの駅が分からなくなり目的地にたどり着けないことがあり、道案内への協力をスムーズに仰ぐことができる一工夫として考えました。簡単なことでも、このカードを見せることで、こちらよく教えていただけるようになったと実感しています。

●「どうにかなるものさ」の気持ち

例えば、外泊する際にパンツを持っていくのを忘れても、今はすぐにコンビニがあるから困らない。認知症になると家族が全部用意してあげたりしますが、そうすると忘れて家族のせいにしてしまう。だから家族が負担に感じるんです。私は全部自分で用意しています。便利な世の中なんだから「どうにでもなる」という気持ちで生活することも大事なんだと思います。

サポートする人への
メッセージ

当事者本人の目を見て話しましょう

サポートする方は、認知症の家族や

付き添いの人に困りごとを聞くのはやめてください。必ず本人の目を見て「必要なことがあれば言ってください」という姿勢でいることが大切です。当事者自身の尊厳を守り、自立をうながすことで、ゆくゆくは認知症の進行を遅らせることができると思っています。

財布は当事者本人が管理しましょう

財布がないとどこへも出かけられないので、生活する意欲を低下させてしまい、進行を早めてしまう危険があります。財布の金具などとズボンのベルト通しなどをストラップでつないだり、バックとつないだりするだけで、落とす心配も減ることでしょう。

丹野さんがモデルの映画「オレンジ・ランプ」が公開

丹野さんが企画協力した、丹野さん自身の実話に基づいた映画「オレンジ・ランプ」が昨年6月に全国公開されました。いつだれが若年性認知症になっても希望を持って生きることができるというメッセージが、たくさんの人の共感を



▲若年性認知症になっても希望を持って生きる、丹野さんの実話に基づく映画。

呼んでいます。多くの人に若年性認知症について知ってほしいという願いが込められていて、主催者は「あなたの町で上映会を開催しませんか?」という呼びかけを行っています。全国から問い合わせが続いており、今もたびたび上映会が開かれています。

当事者同士の出会いの場「おれんじドア」

認知症の悩みの相談に認知症当事者が応じる

丹野さんが2015年5月に開設した、宮城の認知症をとともに考える会「おれんじドア」(ご本人のための物忘れ総合相談窓口)は、丹野さん自身が若年性認知症の当事者として生活する中で必要性を実感したことを形にした取り組み。「若年性認知症の仲間と知り合って安心感が得られ、落ち込む時間が短いほど立ち直るのも早いことを身をもって感じたので、若年性認知症の当事者が、物忘れが多いといった悩みの相談に応じる取り組みを始めたんです」と丹野さん。この取り組みを全国各地の自治体に広げる活動も展開。丹野さんとの出会いをきっかけにして、岡山県笠岡市や愛知県名古屋市で

はそれぞれ、趣旨を同じくした独自の形の「おれんじドア」が開設されるなど、当事者同士が会える居場所づくりの取り組みが広がっています。また、宮城県の認知症を診察する医療機関と連携し、認知症の診断を受けた直後に、認知症の当事者と話ができるという仕組みを作り好評を得ているとのこと。丹野さん自身が診断された後、どうすれば良いのか分からず絶望感を味わったことから、そういう当事者を減らしたい思いが強いとのこと。「認知症になっただけ。少しの工夫と知恵を活かすことで昨日と変わらない生活を続けられることを伝えていきたい」と言葉に力を込めました。

新たな人材「アシスタントワーカー」

アシスタントワーカーとは？

介護施設等において掃除や食事の片付け、洗濯、物品の補充等、直接介助に携わらない業務を担当する“介護職場の人材”です。

活躍中のアシスタントワーカーにインタビューをおこないました

勤務日数や時間帯は人によってさまざま、みなさん自分に合った働き方で活躍されています。

10月号の「アシスタントワーカー導入のススメ～職場環境改善と人材確保～」に引き続き、12月号でもインタビューの内容をご紹介します！

勤務先／社会福祉法人 健成会
特別養護老人ホーム 加賀屋の森
Nさん&Sさん
《お2人とも60代、介護未経験》
〒559-0011 大阪市住之江区北加賀屋5-4-23
☎06-6686-5301



介護の現場は、効率性を求めているイメージを持っていただけ、加賀屋の森で勤務をしてから1人ひとりに寄り添ったケアをしていると知ることができました。未経験からのスタートでしたが、介護職員初任者研修にもチャレンジする予定です!(Nさん)

スーパーのレジ打ちの仕事とアシスタントワーカーのダブルワークをしていましたが、アシスタントワーカーの仕事にとってもやりがいを感じて、今年からフルタイムで働いています。利用者さんから「ありがとう」の一言をいただくとやっていて良かったなあと感じます。(Sさん)



勤務先／社会福祉法人 亀望会
特別養護老人ホーム 江之子島コスモス苑
Mさん《70代》
〒550-0006 大阪市西区江之子島1-8-44
☎06-6225-2662



自分のペースで、無理なく働くことができています。仕事することにより、生活リズムが整って体調が良くなりました。休みの日は大正琴を習っていて、週に1回、ボランティアとして利用者さんに演奏もしています。利用者さんが毎週楽しみに待ってくださっていることがとても嬉しいです。



趣味の大正琴を披露♪

令和6年度 アシスタントワーカー導入取組み施設はこちら

「アシスタントワーカーの仕事を知りたい」「自分に合った働き方を探している!」そんな方は、ぜひお気軽にお問い合わせください。次回の2月号でも、引き続きアシスタントワーカーの活躍を紹介しますのでお楽しみに!

社会福祉法人 嘉誠会

特別養護老人ホーム ヴァンサンク東住吉

〒546-0013
大阪市東住吉区
湯里5-13-5
☎06-6760-7011



社会福祉法人 幸聖福社会

特別養護老人ホーム 藤ミレニウム

〒531-0073
大阪市北区
本庄西2-6-15
☎06-6371-6233



社会福祉法人 大阪自彊館

障害者支援施設 エフォール

〒533-0023
大阪市東淀川区
東淡路1-4-49
メゾン リベルテ
☎06-6325-3315



住み慣れた街で安心して暮らす

社会福祉協議会と地域包括支援センターの活動

- 淀川区社会福祉協議会 藁科 慧氏
- 淀川区地域包括支援センター 梶井 浩彰氏

日時▶12月17日(火)14:00~

場所▶大阪市立十三市民病院 9Fすかいルーム

その他▶マスク着用 申込不要



活動を知って
相談を

子育てや介護など、
暮らしの困りごとを
1人で抱え込まないで



問い合わせ先

〒532-0034 大阪市淀川区野中北2-12-27
大阪市立十三市民病院 地域医療連携室 ☎06-6150-8000(代表)



第66回 大阪市立弘済院附属病院 市民公開講座

受講料
無料

大阪公立大学大学院医学研究科と弘済院附属病院の高齢者医療に関する連携にかかる連絡協議会共催

【開会挨拶】

柴田 利彦
(大阪公立大学医学研究科教授・心臓血管外科学)

【第1部】「人は何故歩けなくなるのか?」

講師 寺井 秀富
(大阪公立大学医学研究科教授・整形外科)

座長 田中 亨
(弘済院附属病院病院長)

【第2部】「認知症の今について」(仮)

講師 内田 健太郎
(弘済院附属病院精神神経科担当部長兼
大阪市福祉局高齢者施策部医務主幹)

座長 吉崎 崇仁
(弘済院附属病院神経内科部長)

【閉会挨拶】

田中 亨(弘済院附属病院病院長)

■日時/令和7年1月10日(金)14:00~(受付:13:30~)

■場所/あべのメディックス 6階ホール
大阪市阿倍野区旭町1丁目2-7
(大阪メトロ御堂筋線・谷町線「天王寺駅」、JR「天王寺駅」、近鉄電車「阿倍野橋駅」、阪堺電車「天王寺駅前駅」)

■定員/150名(先着順)

■申込方法/電話・ファックス・メール・病院窓口・QRコード
〈ファックス・メールの必要記載事項〉

「公開講座参加希望」と明記の上、①申込代表者のお名前(フリガナ)・②住所・③電話番号・④参加希望人数を記入してください。

※手話通訳が必要な方につきましては、その旨をお申込みとあわせてご連絡くださいますようお願い申し上げます。

※定員を超えた場合にのみ連絡します

■申込期限/令和7年1月6日(月)

医療・福祉専門職による相談コーナーも併設します。

問い合わせ先
申し込み先

大阪市立弘済院 管理課 新谷・前田
☎06-6871-8032 ☎06-6872-0549 ✉kousaiin-kenshu@city.osaka.lg.jp
※問い合わせ可能日、可能時間:月~金(祝日を除く)9:00~17:30



講座案内

● 市民向け講座

市内在住、在勤、在学の方

講座名	日時	受講対象者	講師	内容	その他
地域福祉活動者講座 ファンドレイジングを学ぶ	【基礎編】 令和7年1月14日(火) 【実践編】 令和7年1月28日(火) 14:00～16:00	大阪市内に在住・ 在勤・在学中、ファン ドレイジングに関心のある方	社会福祉法人大阪市 ボランティア協会 事務局主幹 青山 織衣	【基礎編】地域福祉活動運営を下支えする手法として「ファンドレイジング」があることやその詳細について理解を深めます。 【実践編】実際にファンドレイジングに取り組めるよう、実務手順など具体的な進め方等の詳細について学び、理解を深めます。	定員:30人 締切:12月20日(金) 受講料:無料

● 福祉従事者向け研修

申込み多数の場合は抽選です。締め切り後に、事業所あてに決定通知を送付します。

研修名	日時	受講対象者	講師	内容	その他
介護主任・ リーダー職員研修	令和7年 1月22日(水) 2月27日(木) 10:00～17:00	大阪市内の福祉 関係施設・事業所 等で介護主任、 リーダーとして勤 務する職員	公益社団法人 大阪介護福祉士会	福祉事業所における主任・リーダーは、職員や利用者の課題や苦難に寄り添うこと、人材の育成、指導などが求められ、事業運営の中心的な役割を担っています。主任・リーダーとして、多様な介護サービスの実態に対応できるよう、事例検討などにより実践的に学びます。	定員:20人 締切:12月27日(金) 受講料:6,000円
OJT推進研修	令和7年 1月30日(木) 2月6日(木) 10:00～16:30	大阪市内の福祉 関係施設・事業所 で勤務する職員	関西福祉科学大学 学長 津田 耕一	人材育成の基本であり、指導的職員に期待される役割のひとつであるOJT (on the job training)の重要性と推進体制を理解して、効果的な職員の育成方法、指導方法を習得しましょう。	定員:36人 締切:12月27日(金) 受講料:6,000円
大阪市福祉人材養成 連絡協議会 会員提供講座 「トラウマインフォームドケア」研修	令和7年 2月3日(月) 13:30～16:00	大阪市内の福祉 関係施設・事業所 で勤務する職員	大阪大学大学院 人間科学研究科 公認心理師 プログラム運営室 高田 紗英子	トラウマによる生きづらさを抱えた方への支援を日頃の生活支援場面でも取り組むにあたり、「トラウマインフォームドケア」について学び、新たな視点の獲得や支援の向上をめざします。	定員:30人 締切:1月15日(水) 受講料:無料

★日程及び締切日は、主催者の都合で変更する場合があります。

申込・問合せ先

研修の申込み方法▶当センターのホームページから申込むか、申込用紙をダウンロードしてFAXでお申込みください
市民向け講座のみ電話でも受け付けます

大阪市社会福祉研修・情報センター 〒557-0024 大阪市西成区出城2-5-20

☎06-4392-8201 ☎06-4392-8272 🌐https://www.wel-osaka.com ✉kensyu@shakyo-osaka.jp

映画「オレンジ・ランプ」上映会 & 丹野 智文さん講演会

令和7年2月15日(土) 13:30～16:30

第1部 映画「オレンジ・ランプ」上映会

【あらすじ】妻・真央や二人の娘と暮らす39歳の只野晃一は、充実した日々を送るカーディーラーのトップ営業マン。そんな彼に、顧客の名前を忘れるなどの異変が訪れる。下された診断は、「若年性アルツハイマー型認知症」。驚き、戸惑い、不安に押しつぶされていく晃一は、とうとう退社も決意する。心配のあまり何でもしてあげようとする真央。しかし、ある出会いがきっかけで二人の意識が変わる。「人生を諦めなくていい」と気づいた彼ら夫婦を取り巻く世界が変わっていく…。

第2部 丹野 智文さん講演会

今月号の特集ページでも取材した、映画「オレンジ・ランプ」の主人公のモデルである丹野さんに、若年性アルツハイマー型認知症当事者の思いや、生活の中での工夫、認知症があっても生き生きと暮らし続けられる社会についてお話いただきます。



会場 / 大阪市社会福祉研修・
情報センター5階
大会議室
対象者 / 大阪市内在住・在勤・
在学の方

定員 / 80名(先着順)

申込方法 / 電話・ホームページ・当センター窓口でお申込み
ください。

申込締切 / 令和7年1月27日(月) 午後5時まで

受講通知 / 2月上旬に郵送でお送りします。

※2月7日(金)までに通知が届かない場合はご連絡ください。



図書・資料閲覧室からのお知らせ

図書・DVD新着情報

図書紹介

認知症のある人への経済支援 まるわかりガイドブック

竹本 与志人 ほか 編著
中央法規出版 2024年

認知症のある人や家族に関する経済支援に特化した社会保障制度のガイドブック。制度を図解したうえで、実際にどのように使えばよいかを20の事例にもとづいて紹介。専門職として知っておくべき知識が満載の一冊。



8050問題 本人・家族の 心をひらく支援のポイント

山根 俊恵 著 中央法規出版 2024年

8050問題への具体的な支援の方法を解説した支援者向けガイドブック。ひきこもりの理解や支援のポイントを事例を上げながら解説する。また、家族の発言から、どこに問題があるのかを紐解き、支援者としてのかかわり方、寄り添い方も解説。



カマヤンの日本一めんどくさい 釜ヶ崎まちづくり絵日誌

ありむら 潜 著 明石書店 2024年

大阪・釜ヶ崎に生きるおっちゃん・カマヤンを主人公にした4コマ漫画と、著者が関わるまちづくりに関するエッセイを収録。日雇い労働者の町から「西成特区構想」やインバウンドで変わりゆく状況を活写し、地域の生活誌としても貴重な記録。



丹野智文 笑顔で生きる 認知症とともに

丹野 智文, 奥野 修司 著
文藝春秋 2017年



認知症の私から 見える社会

丹野 智文 著
講談社 2021年



オレンジ・ランプ

山国 秀幸 著
幻冬舎 2023年

図書・資料閲覧室 休室のお知らせ



図書・資料閲覧室は、書籍・資料などの蔵書点検と年末年始の休館のため、以下のとおり休室いたします。

- 令和6年12月24日(火)～12月26日(木)：蔵書点検
 - ※返却のみ1階事務所で午前9時～午後9時まで受付けております。
 - 令和6年12月29日(日)～令和7年1月3日(金)：年末年始の休館
- ご利用の皆様には、ご迷惑をおかけしますが、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。
- ★12月27日(金)、12月28日(土)、1月4日(土)は通常通り開室いたします!



毎週金曜日の開館時間を午後7時まで延長しています。ぜひご利用ください!



大阪市社会福祉研修・情報センター2階の図書・資料閲覧室では、福祉に関する図書・DVD・ビデオなどを、無料で貸出しております。(認知症、介護技術、手話のDVDや、福祉の関係の雑誌などが充実しています。)

開室時間／月曜日～木曜日・土曜日 9:30～17:00、金曜日 9:30～19:00

利用資格／貸出し期間(2週間)内に、来館しての返却が可能なる方

休室日／日曜日・祝日(土曜日は除く)・年末年始

問合せ先／☎06-4392-8233 お電話で図書・DVDの予約も承ります

DVD紹介

ある認定こども園の挑戦Ⅳ 「こどもまんなか社会」に向けて

サン ED 2024年

「こどもまんなか社会」に取り組む認定こども園に取材し、誕生前から小学生以降まで「ワンストップ」で支援する活動や、保育者だけでなく、保護者、地域と協働した保育・子育て支援の仕組みづくりを紹介する。

- ①切れ目のない保育への取り組み(47分)
- ②保育者、保護者、地域が協働する保育(44分)



こわれること いきること

アイ・ピー・アイ 126分 2023年

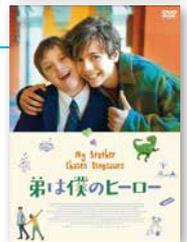
東日本大震災で家族を失い、介護施設で働く女性の姿を通して、高齢化社会の生き方や人間の尊厳に迫ったヒューマンドラマ。1人だけ生き残った暁は、地元の介護施設で働き、忙しい日々を過ごす。そこへ、高校時代の恩師が入所してくる。



弟は僕のヒーロー

ミモザフィルム 102分 2024年

生まれてきた弟は“特別”だと両親から告げられたジャックは、やがてその意味を知り、思春期に入ると弟の存在を隠すようになり……。ダウン症の弟と兄が作った5分のYouTube動画から生まれた、大ベストセラーの映画化!





あなたが好きなことや得意なことを活かせる場がここにあります!

～介護予防ポイント事業の活動者募集中!～

施設活動コースの

年間のポイント換金上限額を**10,000円に増額**しました!

健康のために何か始めたい! 自分の得意なことを活かして生きがいづくりをしたい! まずは研修を受けて、あなたらしい活動を始めてみませんか。介護保険施設や保育所等で対象となる活動をする、ポイントがたまり換金することができます。あなたの参加をお待ちしています。

活動されている方の声

参加無料!

自分の好きなことや得意なことが役に立って嬉しい!



元氣と笑顔をもたらるのが生きがいです♪

【対象者】市内にお住まいの65歳以上の方

【活動場所】登録された市内の介護保険施設や保育所等

【活動内容】施設を利用される方の話し相手や将棋等のゲーム相手から、食事の配膳や花壇の手入れまで様々です。

保育所では、絵本の読み聞かせなど子どもたちとふれあう活動もあります。活動頻度や内容は、事前に相談できます♪

【参加方法】登録のための研修(1時間半程度)を受けていただきます。

2月以降の研修日程は、ホームページやお電話等でご案内しています。

【研修日程】

日程	時間	場所	所在地
12月5日(木)	14:00~15:30	平野区社会福祉協議会	平野区平野東2-1-30
12月12日(木)	14:00~15:30	天王寺区社会福祉協議会	天王寺区六万体现在5-26
1月28日(火)	14:00~15:30	西淀川区社会福祉協議会	西淀川区千舟2-7-7
1月30日(木)	14:00~15:30	中央区社会福祉協議会	中央区上本町西2-5-25

【お問い合わせ】

大阪市社会福祉協議会 介護予防ポイント事業担当
所在地/大阪市天王寺区東高津町12-10
✉kypoint@osaka-sishakyo.jp
☎06-6769-5610

大阪市社会福祉協議会
公式HP▶



健康生活 応援グッズ

移動を安全快適に

快適な介護サービスをサポートします



●RAKUDA(らくだ)

背上げ・脚上げによるリクライニングで「寝心地らくだ」。使いやすさにこだわった手元スイッチで「操作がらくだ」。お掃除かたん「お手入れらくだ」。毎日使うものだからいろいろな「らくだ」で快適に。

介護する方の負担を減らしより良いケアをお手伝いします



●ミオレットⅢネクスト

垂直昇降で省スペースを実現。移乗し易く、身体のズレ抑制機能も充実。省スペースに設置可能な垂直昇降機構や身長に合わせて選べるベッドサイズなど、細部にまでこだわった使いやすさです。

Wide&Longで特別なゆとり空間を



●楽匠wing(らくしょうウィング)

背と膝の動きにベッドの傾斜を組み合わせたパラマウントベッド独自の背あげ機能で身体のずり落ちや圧迫感を軽減します。大きく寝返りが打てる100cm幅を採用。さらにロングサイズへの切り替えも可能です。

問合せ

公益社団法人関西シルバースervice協会
介護情報・研修センター福祉用具展示場
〒542-0012 大阪市中央区谷町7-4-15
大阪府社会福祉会館1階

☎06-6763-1480
🌐https://kansil.jp

今月の自助具/膝ホルダー

主な適応疾患・対象者 ▶ 車椅子使用時に膝が開いてしまう人



【機能・特徴】

●車椅子使用時に膝を固定する

【使い方】

●移動時の膝を安定させるために、ホルダーを膝上から押し込んで装着する
外す時は上に引き上げれば簡単に外れる

資料提供・問合せ ▶ 特定非営利活動法人 自助具の部屋

☎06-4981-8492(月・水・金 10:00~15:00)

NPO自助具の部屋ホームページ▶



マイナンバーカードの申請受付

ご希望の場所に **無料** お伺いします!

区役所に行かなくても、
カードを受け取れます!

予約制

写真撮影
無料!

時間は約**20分**

※別途設営時間が必要となります

※訪問先は大阪市内に限らせていただきます。

「マイナンバーカードをまだ申請していない方」と
「マイナンバーカードを申請済でまだ受け取っていない方」の両方に対応します。

外出が困難な方は、お一人でもご利用できます

※同居のご家族等も一緒にご利用いただけます。

外出が
困難な方の例

- ・病気で寝たきりの方
- ・介護を受けている方で外出が困難な方
- ・障がいをお持ちの方で外出が困難な方

大阪市マイナンバーカード
出張申請サポート窓口・訪問型出張申請受付サービス コールセンター

TEL **050-3535-0200** [受付時間] 全日/9:00~17:30
(12/29~1/3を除く)

FAX 06-7178-8897 ✉ osaka.city.mnc@ddcontact.jp

訪問型出張申請受付サービス
特設サイトはコチラ!

<https://mynumber.city.osaka.lg.jp/visit/>



(広告)

どんな広告を
作ればいいのか
悩む...

何年も使っている
冊子を
新しくしたい!

内製している
チラシの評判が
よくない...

**クリエイティブ関連のお悩み解決は
「ウェルおおさか」も制作している
アド・エモンにぜひお任せください!!**

チラシ	パンフレット	小冊子
カタログ	会社案内	各種PRツール
取材・撮影	印刷	アニメーション動画 and more...

納得のご予算でお客様のイメージを
トータルでカタチにします!!

TOTAL CREATION

AD-EMON

株式会社 アド・エモン

〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目北1-23 丸丹ビル306号
TEL 06-6358-1010 FAX 06-6358-1011 ✉ info@ad-emon.com

<http://www.ad-emon.com>

(広告)

ウェルおおさか

はーとフェア2024

つなごろう〜つなげよう〜ふくしの輪!

と き / 令和6年12月7日(土) 10:45~15:30
と ころ / 大阪市社会福祉研修・情報センター
〒557-0024 大阪市西成区出城2-5-20

開催内容

- 映画「梅切らぬバカ」上映会 11:00~ 事前申込制
- きらめき大賞&講演会 13:15~ 事前申込制
 【第1部】きらめき大賞 表彰式・報告会
 【第2部】角 淳一さん講演会 「ちちんぷいぷい」
 「笑って楽しく生きていく」 でおなじみ!

- 福祉・介護の展示・体験&相談コーナー
- 介護技術講座~持ち上げない介護技術を学ぼう~
11:00~ 事前申込制
- 高齢者にやさしい食事講座 13:30~ 事前申込制
- 自助具相談コーナー&製作体験講座 事前申込制
体験講座▶第1部11:30~、第2部14:00~
- ゆ〜とあい子どもの体験コーナー 13:00~
(実験・知育遊び・ゲーム)
- 絵本・紙芝居読み聞かせ 絵本11:30~ 紙芝居12:00~
- ミニステージ (踊りや演奏など楽しいパフォーマンス)
- たこ焼き・クレープ・弁当・手作り小物などの販売
- リサイクルブックフェア ● スタンプラリー

入場
無料!

CENTER INFORMATION

大阪市社会福祉研修・情報センターのご案内

開館時間 / 9:00～21:00まで(土・日曜日は9:00～17:00まで)

図書・資料閲覧室は9:30～17:00まで(月～土曜日) ※毎週金曜日19:00まで

休館日 / 国民の祝日(土・日曜日と重なる場合は除く)、年末年始(12月29日～翌1月3日)

項目	直通電話番号	お問合せ時間
会議室など利用の問合せ	06-4392-8200	9:00～21:00(土・日曜日は17:00まで) (会議室の申込・お支払いは9:30～17:00)
研修関係の問合せ	06-4392-8201	9:00～17:00
図書・資料閲覧室の問合せ	06-4392-8233	9:00～17:00

貸室ご利用の皆様へ

貸室予約がオンラインで24時間パソコンやスマートフォンから可能となりました。

ホームページの【貸室のご案内】よりログインし、ご予約ください。
初めてご利用される方は、事前にお問合せください。

ウェルおおさか

利用申込の受付は6か月前からです。

利用日の6か月前(6か月前の同じ日)から、インターネットでの予約、または電話や窓口でご確認のうえ所定の用紙でお申込みください。

電話や窓口での受付は、9:30から17:00まで。

☎06-4392-8200 FAX06-4392-8206

※インターネットでの予約可能な期間は、利用日の6か月前から利用日の1週間前までです。

FAXでの申込み可能な期間は、利用日の6か月前の9:30～利用日の3日前までです。
詳しくは、ホームページの【貸室のご案内】をご覧ください。



■会議室等の使用料

利用できる貸室および料金は、次のとおりです。ご予約は利用日の6か月前からです。

(単位:円)

室区分	利用人員のめやす	時間区分	午前	午後	夜間	全日
			9:30～12:30	13:00～17:00	18:00～21:00	9:30～21:00
4階	会議室	99	3,800	5,100	3,800	11,400
	会議室 東	45	1,900	2,600	1,900	5,800
	会議室 西	54	2,900	3,800	2,900	8,600
	介護実習室	36	5,700	7,600	5,700	17,100
	演習室	18	1,000	1,300	1,000	3,000
5階	大会議室	144	5,800	7,700	5,800	17,400

交通 / ご来所には【大阪シティバス】【JR】【大阪メトロ】をご利用ください

●大阪シティバス

【長橋二丁目】バス停すぐ
52系統(なんば～あべの橋)

【中開三丁目】バス停徒歩5分
80系統(鶴町四丁目～あべの橋)

●JR大阪環状線・大和路線

【今宮】駅から徒歩約10分

●大阪メトロ・四つ橋線・御堂筋線

【花園町】駅(①・②出口)から徒歩約15分

【大国町】駅(⑤出口)から徒歩約15分

所在地 / 〒557-0024 大阪市西成区出城2丁目5番20号

設置主体 / 大阪市

運営主体 / (指定管理者)
社会福祉法人 大阪市社会福祉協議会

電話 / ☎06-4392-8200(代表)

ファックス / FAX06-4392-8206

URL / https://www.wel-osaka.com

Facebookもチェック



X(旧Twitter)もチェック



「ウェルおおさか」に
広告を掲載しませんか

詳しくはお問合せください…

大阪市社会福祉研修・情報センター

☎06-4392-8201 FAX06-4392-8272

✉kensyu@shakyo-osaka.jp



人権啓発キャッチコピー

【テーマ】人権全般

助け合い みんなでつくる 笑顔の世界

おだかわ 小田川 さくらさん(令和5年度「人権に関する作品募集事業」キャッチコピー 高校生の部 佳作)